

光のリゾートに現れたスペクタクルショー

NESTA RESORT KOBE ネスタイルミナ「イグアスの伝説」



230 万㎡におよぶ広大な自然の中に、2016 年7月にオープンした大型複合リゾート施設「NESTA RESORT KOBE」。ホテルやプール、スパ、BBQ、スポーツなど様々なアクティビティとともに、人気のひとつとなっているのが、イルミネーションエリア「ネスタイルミナ」である。このエリアが2017年12月20日、全面的にリニューアルオープンした。中でもゲストを驚かせているのが、大迫力のスペクタクルショー「イグアスの伝説」。このショーの映像制作を担当した、レイのプロデューサー・小山正己氏が、その仕掛けとプロジェクトストーリーを語ってくれた。

人気のイルミネーションスポット

リニューアルしたネスタイルミナのプロローグは、虹色に輝く「ダンシングウォール」。そこから、全長約220mもの光に囲まれた「Wonder Tunnel」を通り、光の帆船や神殿など巨大な海底世界を表現した「マーメイドパラダイス」、ペンギン「ヌヌシュ」の冒険をプロジェクションマッピングで楽しむ「マッピングシアター」と、目映い光に満ちた空間が続く。そして、エリアの奥に湧く、泉を舞台に繰り広げられる映像演出が「イグアスの伝説」である。これまで、ウォータースクリーンに

よる映像演出が人を集めていたが、そのバックに新しく幅120m、高さ15mというLEDメガビジョンを設置。音響効果も駆使した壮大なスペクタクルショーに生まれ変わらせる。

ウォータースクリーンの思い出

ウォータースクリーンは、1つのノズルから大量の水を扇型に噴射して薄い水膜を形成し、背後からプロジェクターやレーザーなどを照射することで、空中に映像が浮かんでいるかのような幻想的な演出が行える装置。開発したのは、世界的な空間演出家、イブ・ペバン氏（仏）で、日

本では1990年の「国際花とみどりの博覧会」のディリーフィナーレ難波宮イリュージョンで使われたのが最初だと思う。私はこの演出に感動し、その後、日本の噴水会社と1年くらいかけて装置を共同開発した。ペバン氏とも何度か一緒に仕事をし、表現者としての技術やアイデアをたくさん学ばせていただいた。それにしても当時は、プロジェクターの輝度がまだまだ低く、35mmや70mmのフィルム映写機、PIGIという大型スライドプロジェクターを使っていたのを思い出す。映像装置の進化は感慨深い。



(写真上)「イグアスの滝」と躍動する生命を背景に、ウォータースクリーンに「聖なる者」が現れる(左)炎を放つ少女。炎はウォータースクリーンから背景のLEDビジョンへと飛び交う。少女はこのあと「邪悪な者」へと変身する



ストーリー創りはヒラメキと直感

コンテンツ制作にあたっては、オーナーから「イグアスの滝を表現したい」との要望があった。世界最大の滝を誇るそのスケールは、確かに120mのLEDメガビジョンで表現するに相応しい。重要なのはストーリーである。イグアスの滝がただ大きいと知っているだけでは、ストーリーは創れない。

私はいつもストーリーの背景を徹底的に調べ、可能であれば体験し、そこから関係しそうなキーワードを導きだす。そのワードから演出シーンが断片的に生まれ、これらをつなげてひとつのストーリーを創作する。今回はさすがに南米まで出かけることはできないので、資料上で調べるしかなかったが、「広大な森」「水のカーテン」「動植物の息吹き」「悪魔の喉笛」「生命と悪魔の戦い」といったワードがイメージとなった。

見せ場となるポイントを幾つか決め、最

初はざっくりとストーリーを考え、その絵コンテ作成する。とにかく絵にして文字を加え、60枚ぐらいのコンテカットを作る。次にVコンテを作成し、それに修正を加えながらGG制作に入る。

私がつくる作品の上映時間は、数分から長くても20～30分程度。この短時間にすべてを凝縮するためには、ストーリーはシンプルであるほど観客に伝わる。それだけにイメージを大きくするよりも、ヒラメキや直感を大切にしている。瞬間のヒラメキからストーリーを紡いでいく作業である。そして、自分が迷ったときには、必ずストーリーに戻る。

コンテンツと映像装置の最適化

今回、最も工夫を要したのが、コンテンツをどう映像装置に組み込むかであった。ウォータースクリーンの特性は理解しているし、プロジェクターの性能ももちろん充分であったが、バックのLEDビジョンのピッチが20cmとかなり粗いと聞き、

ビジョンの特性の中でコンテンツがきれいに表現できるのか不安であった。また、ウォータースクリーンとLEDビジョンの映像が重なる部分で、バックのLEDが明る過ぎて、ウォータースクリーンの映像がまったく見えない状態になってしまった。LEDのオペレータに輝度を最適化してもらい、私も画づくりのなかでコントラスト等の調整を行った。こうしたカット&トライを繰り返し、予定通り12月20日のオープンを迎えた。

私がこの仕事の依頼を受けたのが10月2日。ストーリー作成からクライアントの承認を受け、Vコンテができるまで3週間ほど。そこからスタジオ撮影やCG制作、現地試写、修正、音楽制作などの作業をこなした。無事にオープンできてホッとしている。

レイ 小山正己

(写真上) 聖なる者と邪悪な者が激しい戦いを繰り広げる。ウォータースクリーンとLEDビジョンとの緻密なシンクロが没入感を生む



スタジオ撮影風景



咲き誇る熱帯の花々。イグアスの滝から生まれる生命の瑞々しさと、聖なる者と邪悪な者との戦い、そのコントラストをストーリーに散りばめた

映像装置の全景。ウォータースクリーンはW30m×H15m。背景のLEDビッグビジョンはW120m×H15m

Design

小山 正己
Masami Koyama

1952年奈良県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒。プロデューサー、演出家として博覧会やイベントのショー制作、映像演出、コンテンツ制作に携わる。主な演出・制作実績に、上海万博大阪館および中国民間企業館メインショー（2010年）、中国・西安市大明宮「天の祭り」（2011年）、OSAKA 光のルネサンス「シャイニングアートウォール」（2012年）、光のルネサンス中之島公会堂プロジェクションマッピング（2013年）、大阪水龍（2015年）など



works DATA

施主：NESTA RESORT
プロデュース：電産企画 吉田英治
システム設計：トライト 山田康生
コンテンツ演出・制作：レイ 小山正己
キャラクターデザイン：デザインハウス・アーク 井上昭二
CG制作：レイ 有木優 / T601 山田新司
モデル：Cosmopolitan Model Agency Pamina Gruensteidl
撮影ディレクション：本田明弘
作曲：堀川晃弘
テクニカル：シネ・フォーカス 斉藤一翔

使用機材

LEDメガビジョン：LEDモジュール44000灯
「アドレスマルチストリングスHG」（トライト）
ウォータースクリーン：ドゥ・サイエンス
プロジェクター：20000lm「PT-DZ21K2」（パナソニック）